

新編江戸志

四

一〇	九	一	二	和書門
冊	架	函	號	類

五	三	和書
函	冊	類

内閣文庫	
番號	和 22683
冊數	10 (4)
函號	174 35

内(一〇九)三號

共十



新編江戸志卷之四

國書

大塚

川口

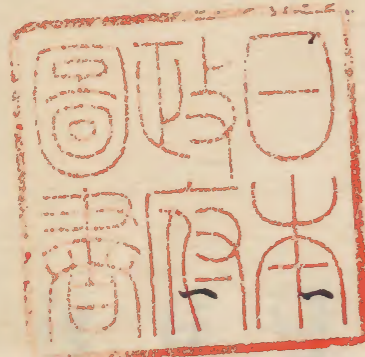
谷中 根津 三軒 墨澤 日暮里 三河島

駒込 千駄木 雑司が谷

深井 西原 中里 田畑

牛塚 王子 滝野川 原久

川口 十条 稲村



正

新編江戸志卷之四

川口	平塚	深井	駒込	谷中
十条	王子	西ヶ原	千駄木	根津
稲付	滝野川	中里	鰻繩子	三崎
	尾久	田畑	鶏声ヶ窪	菅澤
				日暮里
				三河島

内一〇九〇三號



改正新編江戸志卷之四 東武懷山子輯著

谷中

内一〇九〇三號

谷中上野との名ありて下谷に對して谷中
とよみありてさきと古名にはありてさきめり
條分限はともは名あり

○根津神社

神領五百石

大己貴命

社傳曰祭神三座

素盞鳴尊

鎮守年歴不詳

女彦名命

佐古々今乃手結木村の角元根付とよみありて

元より今の社地をいふと横田君伊豆公をよそ下谷
伊豆公と唱へたる一書寛文年中 文廟伊豆
公社として 伊豆公の社に依りて奉幣
一はらなりと後室永元年中社所造営曰之
年三月六日遷去あり祭礼を五月廿一日あり
和漢三文圖會曰室永年中賜社領權現勅号云云
神社畧記曰名所記所載ヲ考ルニ當社八太田備中
守何色の所より建立なるとある蓋根津とを崩

のいれりや是大黒天を祭りあるん跡に天井
又ら繪るるどん崩と多く書てんゆれ大黒
の社の事記せりと記せり

伊吹左亮子

社家五軒

神主

伊吹左門

社僧六宇

別當 医王山正蓮寺昌泉院

神子五人

○形中の井 柏木の井とも云 三崎の内をなうら
江戸麻子に云む一柏木といへる遊女のあり

はきし男にをなれむつましき人あらねばあ
にあらねばうをむすひていそせとうりも後居
しそそふくありぬこのうらと中人埋て志
うしに権のみと極く墳墓の志うにあし一卒
都監をまうつるの事とかく

おひそなれ野中の清水後れをまうて保あまひと
りとしこのけ

ま権のみ大木とまうて今にまうて腫痛まうて

者そのまのまをたけてまをれがあらあまふ
店の通る乃井も今にあらまを野中の井とふ
まに戸袖子にふは井とあらたのあらこま
しそ小き流水の井にまうては地のあらしに同ふ
ふ元人書を回しは地を求めて四十年まふ
れはそのむしをあらだまされあらしれ云は井を
柏井の井とふまうてまたはきまうて袖の書まの
あらあまふべしとあらしとくくしそあし

と後ろさればこそは井ありあらに海濱に家
のを夏の芳例所大滝より丁目南の方こと
云々

撫すらに予つとをいひ也と死るに葉一庭の壳
妃の云は井命を去ぶ紙屋のうらから井之
その水は清きるりいんかきさうとを尋
法住ち向の井をこそを神年の井上のいひ
い人只もあもへちありと所々涼水ある

田へ神中乃清水乃ととらてんかと葉一庭に
あまは井しうおころありとをい井ハたき
る涼かりと一涼涼あうせとをい井のあり
あまらうとあまべ一涼涼がま海やうゆへに
亦もあま車とわらうそホにた砂子
の切とよべ

○お菊が墓 田一辺ニテ水の方坂下海の路
江戸砂子云七面とよ小き石碑を三里路に云
むう一葉といへる女は知めて死に未初にあらうい

てまことんにあぬ死とあるは世にわれをい
らも病苦を多しくべしと云ふれよとあり
病ありむら乳のなき者まゝハ目の病をどきぬ
く乃死をかくたにその志をありあり成就の附
を七かどしとまじく格をまじりたり
梅がたに友にて里人にとよに里光をへ
く云その事多しうあふはるりくくく
八十をわりの病の有りくは憂むくく有り

ていつのれといふるさくあは相傳へく
うら山伏の妻あありとくを以て知らぬ
経書の上からして死にたにちひくあて
りと飛虎と下くふべしといふよ
又人にかきせば知らぬ死んあ
いへり三十年をわらあハ七而れ石碑
のこつあふくを今つものるどは
いへるまをく建くありと語る

○之崎板 信に首より板と云

三十年斗り初るをふり清は板にけりしを後に
ゆあることしり名あり

○管収 むらゝいあられ廣くして
あつちあつちありしこと

吾年れ内に二所あり之時州林との邊りをむり
ハたむりし今も州林との内管収の比はぐらに
跡も又り吾里宗林と乃ち吾も管収といへり
も多し管のむれ花より名けりし

○いらは茶を

江戸ゆ子云むらゝいらはと云く暖簾の水を
を扱す好ありし今ハくはゞ之類とありしあり

○吾亮七板 一名信濃板
むらゝい喜山長多きは不あり

○茅板 感意ちりしらの名より之何處の方へ板

○初名は森

江戸ゆ子に云美梅院乃境内にありし回縁に七び
て名のゆらとあり

○管収 吾の里上の方と云

○日暮里 本名新堀也

宗氏一平に云は新堀と乃薩山より秋の条集あが
めにあらむとそやとさきののくまもあはれゆへに世
に日暮の里とゆきあはれとせしことと
或は云ひ日暮里とせしとせしは也上野につはあはれ
あり人あはれとせしとせしに江戸のひらくまに
よして新に堀廣げてたをひきま人の家居と
まゝあら新堀といひしを新てり日暮里とせしは

名にきく人を又轉訛とりぐりの里といひ
あはれし此巖山はあえの仮名あまを今をひき
ぎんといふがごとく皆轉訛の誤り也

梅子には説を例の将威の人の説にそ和學方
まに廣き人の説をゆ人轉訛の事といひ
きんと江戸の流舟に開くまゝ新にたをひら
きしやあれど新堀の名を所入國より和
の名をうりあまを限帳にえぬれむあま園を
を領しとて附殿にこの名あり日暮里と書

〜〜後の事し

○日暮の表 乃瀧山の向付竹俵屋敷の表とよんを

○道灌山 日暮里のつぎ

太田乃瀧山在城の跡とりふりあつてあつて繩法跡
跡とりぬあつあつの子あどの跡とりぬ享保の
とハ遊觀の場としてを毎に充てられ酒樽
と携へ今の西馬山のこゝに遊ひつゝとあり

○道灌松繫松 乃瀧山入口にあり大木の松二株有

梅ありは乃瀧松に乃瀧山とを圍む瀧
とよふ者れ屋敷のよう一跡ありと書く又
戸砂子後端に一説感念と大旦那商長道
徳といふ屋敷の宅地といへりあつても
ふりくせんさくして是れ西馬乃乃瀧坊に
あつた名跡を失ふに似てゑし一持費入
及に戸草創の跡あれを遺説とせり
と云く活源書と不ふ徳といふべきにやむ
〜〜乃瀧の事跡と傳へられざるあり

ゆゑに松を伐りてそのうへをくさし〜い土地の
屋をとりてにぬのふ扇の繩のごときとつぎ
橋をたらしんとかともぬもあつた舟のなま
の肉とちあつたそのなまをえし〜あつ
〜が〜と〜も〜也城地ありんともあつた
所あり物れむる港の繩法有しは必せり
是を製法とせり。に橋園の観といふも〜
任りんに〜と論あり〜き事あり再板に
砦子云々の港乃るつぎ松ありそのは

もは色に川あり〜明後くと乳さび〜と川を
と虚説と信ぢらよの多〜と書くは是後
に〜附會の説とついで〜是〜あり
松つぎ松といふあり多〜山とあり是川
とあり松の船をつぎと云々他ありは
事と云々〜もつぎ松あり〜と云
杜撰の説あり〜いぬを〜河川あり松
の松をつぎに用ひ〜松あり小石川白
山の松つぎ松あり云々の松あり松つぎ

兼化亭曰船ツナキ松
 ナト云詞ハ鷹ノ
 詞ニ鳥ノ立テ落シ
 ムラヲタシカニ覺テ置
 トテ草ヲ結テ置テ草
 ヲ結ベト指揮スルハ手
 手草ヲ結テ非ス眼カ
 ニ具島ノ落タル如ク
 覺テ置テ置ル
 ノ月即ナリ船
 頭詞ニ大海ヲ
 行船中ニ遠山
 等見テ海路
 深淺方角ヲ足
 ム詞ナリ

ねまこ家小舟向小石川入江にて船の付着せ
 一付の事あり船をつまぐとらふを繩をバ
 つるがに掛けし船の脱あり

梅陰子曰此地を関小次郎長彈入江道観が岩の
 迹にまゝふへかゞん考談ハ道そちん先へ

○かきがし 道灌山の下

任在余所がちどまき山にそゝ家垢がしあり
 跡に石の跡ありしを同よまき山
 に入へしあり享保の初の頃をひかきかゞと捨て

互に面を渡り乃相給製さる入りし道と相
 給とせし今と大方物とありし縁のちりら
 りに其石のちりらと相給のこれと今も相給とす
 是れとせ

この島 由緒乃里の事

江戸松子に云所入園の後に小舟ありはまこ入江
 の子孫之の田代と捨て江戸へ来り所しと
 新子松子の田代乃ちりらとひかきかゞとす

高しりふしを記せり

梅がらに以て説大なる謬りあり小糸今限地
こい高細各こい名知れしを記し物れ
ハ小糸氏康のなすり以名あり所入玉指の若
にあはる細各こい名が領せし高こい高と
いふ酒井忠名の説は地とこい以知れこい
の川ありその中にある古地高こい高とい
ふありしと以説を在あるんあや

○山伏堂 高こい高の先

里讀に云むしは知れて山伏あやそ死せしと
極に葉さるしに以松と極し今以松大木
とあり石碑あれともさるるあは

寺院系 寺中乃神社

○日登山法重院妙林寺 天台上野末 之高 高下

寺傳云開山了性院日秀上人天文年中起立法善地上
の末之五世相續一故あり正徳年中天台宗つとあり
後法印開山也

田中辨天社 堂法 今つうとこの形法で辨天社
かきつらにあり

畧録に云人皇四十九代光仁天皇御宇
寛平五年丙午の夏四月廿一日
に弁天と申す所の岡崎と云ふ人あり
以れ此の地を以て辨天社と云ふ
語ありこの地を以て辨天社と云ふ
と云ふ是れ辨天社と云ふ
何れ辨天社を建てし後享保
三年春

川家より社殿建てる
願地花弓

畧録に云丙午の夏四月廿一日
に弁天と申す所の岡崎と云ふ人あり
以れ此の地を以て辨天社と云ふ
語ありこの地を以て辨天社と云ふ
と云ふ是れ辨天社と云ふ
何れ辨天社を建てし後享保
三年春

瘧瘧のこづみと誤て十死一生にありぬま婦を
にほき像といのちまに夏中に不名海の所あり
て病人の顔といき像えんえりてをて愛見
忠きより瑞人えん地我るをよぶに後光信
の妻某とゆく御く快楽に後には像を信託
念守りても事多あつて不在河極楽水の辺り
ふ祐念ゆくの者信託にまらまら信託家
の不浄ちりうを恐れと信持信託の付あふ

納めもろく

冥驗不動尊

畧縁起之云延享三丙寅年七月十八日秋夜章弼
地国利春紀伊國を想言協後兼川めく細を打
ふ不痛なる由私秘系のまらはと申別とあや
きその細れくをて川よる流を流とんれば不
効明玉のそ像えは長一寸七分背の内三白對
の文ありその文に曰

讚曰

金刹石堅 神惠佛故 授福與德 靈驗不動

大同二丁亥天四月 空海

年救九百四十七年と記す今年今月出現し

かふ事ありて三人の若信を行し徹し別以寺

へを納るるこ

而枝樹 之を風と云ふ能人そと極らしこい

ゆゑはかきと若木也

水鳥坊椋次墳

尚寺にあり

○普賢山新幡隨院法住寺 浄土 同石

同山幡隨院了碩和尚 宝曆四年起立 同基溝口家之

とてこの地を譲り奉るなり

○高光山大田寺 法善宗法恩寺末日不

大黒天 傳教大師作

○延壽山長久寺 日身延末 日不

同山

○松栄山福相寺 月誕生寺末 月不

同山自應院日信聖人 住吉向京の中

○天澤山惠光院 禅宗法燈流 越中國奉寺觸院日不

同山一峯元大和尚

○天隨山明王院 真言弥勒寺末 月不

同山 八幡社安置

松原より天隨山明王院の側に横丁へ入れ八幡社の
方へ出る

○圓住山觀智院妙圓寺 法花法恩寺末 月不

開山同住院日如聖人 寺中一葉院 飛戒坊

八幡神社 元本三乗由アトモ不詳故終畧ス

○龍江山妙法寺 月中山觸頭 月不

同山日如聖人 鬼子母神安置信教大師作

寺中詮量院 栄樹院 学詮房 正善房 春陽房

○立光山正運寺 同京京本國寺末

同山日蓮聖人

三崎稻荷社 尚下法守七面社安玉

○海雲山天竜院 禅宗海祥寺末 同不

開山梅岩和尚

○寂照山竜谷寺 法花新曹妙顯寺末 同不

開山日悦聖人

鎮守愛染明王 福壽稻荷社

○宝栄山本通寺 法花秋後本成寺末 同不

開山日知聖人中興八世日陳上人

○興福山永久寺 禅宗 玉林寺末 同所

開山風室春大和尚

梅乃之永久寺比例横丁之瑞林寺に之表

光寺校前と入道あり

○慈雲山瑞林寺 法花身延船院 同所

開山日慈西上人

住右之林田辺にあり 託宣の是く久しき也なり

寺中

本林院 本妙院 舩仙院 大乘院 正行坊

本立坊 善来坊 久成坊 玉泉坊 玄妙坊

常延坊 瑞泉坊 惠遠坊 大輪坊

○瑠理山長久院 真言彌勒寺末 同所

開山法印省意

○佛到山西光寺無量壽院 目末 同所

開山法印義房

尚るる為毫毛虎開基の地境内之云虎納るの地石

佛の章致天あり

○清林山西光院大泉寺 天台東光院末 同所

開山亮海法印

○圓妙山大行寺 法花法恩寺末 同所

開山四奴院日感上人 寺中 四應坊

○光雲山元通寺法藏院 天台東光院末 同所

開山権大僧都大阿闍梨堅者法印度賢

慶長十七壬子年二月十九日起立以內神田小寺町あり

至安元戊子年十一月五日今乃谷中村に移さる

○信增山宝城院金嶺寺 同宗 同所

閑山慈眼大師 寛永七年御建立

溪康一社金山大権現 慈眼大師御勅法之

不動尊 慈眼大師作 當寺小安置

○大法山一乘寺 法花観別妙光寺末 同所

閑山日賢上人 寺中夏浄坊

○鶴林山泰然寺實相院 天台衆光院末 同所

閑山慶賢法印 寛永三年十月曾起立

願成弁天 傳教大師作

○寂靜山蓮花寺 中山法花寺末 同所

閑山日賢上人

妙守大明神 鬼子母神 毘沙門天安置

○日長山領玄寺 同身延末 同所

閑山領玄院日長上人 世に推水寺より大木の推の本あり

末廣稻荷社

南向系法云身延山三十三世日尊上人此寺に退隱
上人のつづく極る所の松樹室曆三丁酉年二月九日
日日尊三十三回忌の刻死候今に例年多く花候有
寺御様と称とす

○大泉山延壽寺 同末 日所

開基覺性院日勤上人 日所

富増稻荷社 妙見官 當寺安置

○正栄山妙行寺 日宗能洲妙成寺末 日所

開山顯性院日長上人 中真妙心院日尊上人

○寺中 遠行院 長栄坊 常誦坊 了玄坊

熊谷稻荷社 摩利支天 大黒天

○石圃山妙福寺 日宗京本法寺末 同所

開山日親上人 同所

○大兼山長運寺 日宗身延末 同所

開山全兩院日見上人 万治二己亥年起五

梅長久江戸 御子に大破の處に石南寺大

乃よりと記念ゆりて支人及びとをむ
山へふ今とありて道のたより又大塚へ
ありとありてまたありてとありての
松ありとむ

○長久山奴泉寺 尾久湯本真寺 京本國寺 同所

同山

○顯壽山佛心寺 日塚妙因寺末 同所

同山顯壽院日演上人 昆沙門天 傳教大師作

○長源山本光寺 同徳州本土寺末 同所

同山守善院日源上人

○佛壽山上聖寺 同王澤末 同所

同山佛壽院日通上人

○竟山妙情寺 同京立本寺末

同山日養聖人

○妙經山信行寺 同駿洲實相寺末 同所

同山

○鶴泉山宝松院金輪寺 上野末 同所

寺傳云起立の年月を度々の焼失ゆゑと云ふ
一云久用山を察法行者ありて令帰大法と修練
一云身持と云ふ一云一上同二年一
日光御つとより念瑞寺に与ると瑞寺より
神祖師の遺志にも用山納経を勤るより控れを
高寺に寛永年中の起立の跡を本師にあり元
文中中為所に移るしあり

朝日菜師如来 為差大師作

○星梅山妙傳寺 法花相剎妙傳寺末 同所

用山

○望湖山玉林寺 禪吉祥寺末 同所

用山照山養大和尚 寺領貳拾石八斗

○楞伽山天眼寺 濟家本國寺末 同所

用山越兒和尚 正徳三年壬辰七月廿六日寂用基松平下總守殿

○泉源山本壽寺

法花本國寺末

同所

開山

○祝融山瑞松院

禪宗妙心寺末

開山

○龜興山臨江寺

同大徳寺末

同所

開山主山和尚

○妙極院

真言律湯島美雲寺末

根津菅原所

開山

○本覺山愛深寺自性院

真言

三崎大行寺横

開山道意上人

本尊阿彌陀

愛深明王堂中真開山貫海建立 不動茶師安置

○光照山感應寺

法花真間弘法寺末

同所

永涼雜記に云旧地神田小町に故に信仁孫四感意

寺と云

開山日感上人

○長昌山大雄寺

同豆別玉沢法花寺觸以同所

開山大善院日健上人

○瑞應山妙雲寺 円身延末 同所

開山了雲院日登上人

○宝塔山多宝院 真言湯島根生院末 同所

開山法印宥兵

八拾八ヶ所 房四十九番伊豫國浄土寺之移

○廣隆山最勝寺惣持院 天台康光院末 同所

開山崇松法不實元永之巳卯年三月十四日起立

本尊不動尊文六座像朗兵上人作大山同本同作尊像

○長翹山威應寺 天台上野末 寺領三十石

開山日蓮上人二世八日源上人中真開基日長上人元祿

年中天台宗之改らる

本尊毘沙門天

塔頭

- 瑞音院 善明院 正福院 了信院
- 善養院 安玄院 四隆院 福泉院
- 龍珠院 了音院

五重塔

此塔云云あり今中府内に二あり

此の塔云云ありとあり

●松蔭子かよ長禪山感應寺に關山長禪入
乃道観開基あり傳云講と云何と山号と云

釋迦杖

○長清山養泉寺

法苑宗玉は未

同所

関山

○感應山常立寺

同身地未

同所

関山感應院日上人

○福聚山長安寺海藏院 祿妙心未

同所

関山関津和尚

○百文山靈梅院

同海藏寺未

同所

関山神亀和尚

○長光山竜泉寺

法苑

同所

関山日感上人

○蓮葉山觀音寺

真言弥勒寺未

同所

関山尊雄

此寺ノ通リ則七面五出ル道ニ

○清徳山興禪寺 禪宗 宇治真聖寺末 同所

開山 天社

○常信山安亀寺 法苑本法師末 同所

開山日親上人 開運祖師安置

○運立山養傳寺 同身延末

開山養傳院日立上人 當寺と谷中當寺と云

○長谷山加納院 同所

開山法印權大僧都 寛永三年丙子四月六月寂

本尊阿彌陀 八十八ヶ所第六十三番 伊豫國石振寺移シ

○妙見山本竜寺 同本國寺末 同所

開山日惠上人 妙見大士安置相馬門中本尊シ

按此の氏寺の例に板ありは急と堂後と云

先づりくはありこの坂と云れた宗林寺の花出瓦

日暮里辺寺院花寺中之神社

○日照山長明寺 法苑本國寺末 三溪大田寺横町

開山日長上人寺中蓮行院常誦坊 長泉坊 了玄坊

○妙祐山宗林寺 同宗本國寺船所 同所

開山日辰上人寺中惠心院 田龜院 了運院

江戸祐子云尚古境内と管領とり中に花をりり多く以て終る

ふりて里人にて開かしをんど以て迎む管多きゆ人に管領

とり中也

○長真山立善寺 同宗 同所

開山日栄上人

○瑞應山南泉寺 同宗 同所

開山諸相非相禪師大愚和尙

○日達山妙隆寺 日蓮宗 同所

寺傳云開山日達上人本名往古谷中 玉林寺境内供化寛

文六年起立元禄七年當所へ移ル中也

○日暮神明社

寛文六年尚古之御請寛延元年春より尚社

と山上に 建立りし所の里より去りあるるハ

尚社三四世迄の御請古御所とありて尚古境内

乃屋寛永の辰初と造り初む山上神明社へ板
とよまよの及曲折にしと樹木多くみと色し
遊観の人多し

○運啓山快院 同系月延末 同所

開山日蓮上人 慶長六年遷化

聖徳太子堂 三十男神 かのく山と書むし

尚寺の夜宝曆六丙子年より造り初む巖石と
多く之阿比奈及花草付とありし松とけ板

かまごのかりてんれと詠めそんべかすげ田所
乃屋寛永人詠多ゆりり多し

淨居山青雲寺 隆宗妙公末 同所

開山勅諭常叙智光律師曰瑛和尚 宝曆年中攝田所
中真開基

弁天社 江の島と接し岩窟とありし中にあり

観音堂 山上にありし観音の遷形といふも遠く

秋葉社 布袋寺 弁天本社 惠比須 大黒

日暮宮



愛敬虎親音 吾我十府積成与生号虎御前に
附ぞくせし其像より虎親音と称し故より
一燈祿原大坂より其母を高きに安をい後
法にあり安永三年甲午三月大由より其母
を入江依長阿と
是より社之を山とに安をあり明和の辰より
境内と切らしきと地を坂原と稱す山と一の
がふ美法の花若殿集とあり

● 菊重がよはる本を焼失門のこゆりて未
再建あり

○ 法輪山遍照院浄光寺 真言宗末 同所

開基行基菩薩

諏訪社 神領五石

江戸初より信州諏訪法性上下大明神勅
請多た地依建之中奥太田道灌郭内の法与
小宗

●菊堂の「下」話話神社乃例に壬午年三十一碑
あり右に「下」元年中を命たり建立其
安中神領と稱曰く「下」

人聲社頌阿作重保の以内後より納ると云
其源を 宝曆八戊辰年起云

○補陀山養福寺 同宗同末 同所

開基水食義光

諏訪社 百観音 ●如意輪観音 春日作 菊堂遺前

●土面観音 弘法大師作 東山義政公守本尊 菊堂遺前

●正観音 慈光大師作 菊堂遺前

尚とに自階居先生後北率坊碑あり

●桑をがいにくひした梅居宗同墓あり碑の
表たの如し

於我何有か

江戸とてて澄とて之を記す様

梅居西山宗同

○寶珠山延命院 幸妙顯寺末 同所

同山日長上人 慶安元年紀立

七面社

社傳云慶安元年三澤局甲州七面山へ今日篁七
面明神乃感得にく鮮一枚をけりて帰府後苗
社と建立之今に其鮮あり建命院の号も
嚴命あり名符々祈禱と欲はるのこは威ぶ
いふ一水戸家より百石寄附之

○大黒山經王寺 同宗才延末

同山日慶上人 大黒天 日蓮作

○長久山本行寺 同宗法恩寺末 同所

同山明禅院日玄上人 大永三丙戌年紀立

三十番神堂 日蓮上人開眼之太田道灌平河之由至
有る美像之

道灌物乞振 龍溪山人碑塔有

境内にありはる二石斗 言サ一丈ありわろ丸
き山之世にしも大塚七々の内あり

○如法山長善寺 同宗小湊派 芋坂

開山日義大徳

○自然山妙揚寺

同宗

同所

開山妙隆院日能上人

追加

○匡王山東漸寺觀智院 禪宗

谷中

開山

○本覺山宝光寺

真言

同

開山

疑らく本覺山省性院の事あり

○大道山長安寺

禪宗海禪寺末

同

開山老山和尚

もと唐室あり

嚴云の記あり

○觀智院

同之寺

いぢくちうとくはを後人より補筆

○長盛山法界寺

浄土

三河島

開山老蓮社朋養善海和尚

○清滝山觀音寺

真言惣持寺末

同所

開山長遍僧都

○密嚴院

同

同所

開山鏡卷上人

○天光山宗福寺光明院

淨土增上末 道灌山下

開山清蓮社淨卷上人

本尊楠阿弥陀行基作

○天龜山正覺寺洞院

洞家宗統寺末同所

開山甫洲和尚

○辨天社

道灌守本寺

○阿照山仙光教院

京智積院末三川嶋

開山

不動尊良兵作

官地稻荷

三河島

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

駒込

江戸駒子より目か武蔵東夷酒代の付言きよう
此方の概とゆは〜と〜と駒込と〜と〜と
〜と〜と名を〜と〜と根津線記に出入りとき
或説に云江戸駒子の説なり事し〜と〜と〜と
あべの後に〜と〜とゆは〜と〜とあり〜と
んかふ不と〜とゆは〜と駒込牛込あり乃新
む〜と牧屋の不あり〜とあり

梅屋〜と〜と説ありん於牛込駒込あり〜と
む〜と牧屋の地ありん〜と糸分根帳より駒
込の名あり

○駒込稲荷社

求涼兼記云〜と根付社の地皇の社に根付
の社より改まふ南と法元之姓古駒込乃結
ち〜と清揚院殿下名所を女之法とあり〜と云

○神明社 駒込本村 別当 松尾山大泉院

神林を両室童子聖徳太子御作所云々尺五寸五分
尚社を文治五年源朝云々州乃泰衡征伐の
内美愛に徴と看九帝盛長小作中社之北と求
多ふに以木の古松に大床と云り云々の神明を
祭りよる儀中経一と神木の松のこととに
小詞の云々の儀をありたりと慶安年中
堀丹後守利直再長ありとありとの時款也

一石神燈今に在り

●松陰云神木の松を享保年中の四條に移さ
り伐りて一松をさし後一日天全あり今の
神木の松後の若木も利直款と一石神
燈今ハ有し神燈を水漬おしふは徳の年号
なり

●末社 稲荷二社 契田 戸尻 八幡 地倉石仏
右同人進南ス

○海用社 儀駒込富と云 上野末全々丁目
富天山瑞泉院真芝寺
祭所を護河に因り

江戸名不流に曰昔布乃辺にあり山の大木一と
しありいそやに六月大書つとそく人民こもを
ふしれバりあふださう行つ後と富士候間を
勸語にとも世代を加取の屋敷に内之是取
年中以地にうつさう毎年六月相り人々
訪ふとそく

未社 大綱社 足立社 勇我五社 小伊蘇社

不動 山王

奈のり高木の青唐園痛麦葉枕五岳綱某物
とふとらうと

○勸板 多結本内習部屋の先田細の方へ下板を
或人の流れいそく不動板の畧ありとそく

●葉をり板めりそくそりれ在伝の不動言とそ
ふに目赤不動言の畧ありとそく

○千結本板 九拾六丁余り
むききのつたふさくむく一日に千結の勢
と成出しありとそく又右田乃權の極しれ

林あり梅檀の本多くあり一をせんといふ本林
といふも江戸ゆきに尼由又或を人の説に東叡
山はく内新福の護への本千餘づ出まぬり
名行りといふ

○黒塚

貴門者よりうきあそよりとる所か
の制あり

江戸ゆきにいふ區分東の角に一里塚の榎を
い塚あらむむりの江戸橋あまのよといふ

●桑をいひ塚大集あそ今ハ板ありと多度

申塚をいふに建らあり因こいふ二里塚を
義端軍記に本朝世集談綺五の花雜る門
よ天正年中信長公二十六所二里塚を築板
のまとうとていふといふと記に信長には慶
長九年二月四日東海に戦後詔實州詔を
お命し各一里ごとにお塚を築きよと
うへられしと記に信長も天正の
い築り塚ありとありぬ

○鯉繩年 迄かとと木柵の門とよ

里後云は在ひ遠に在る極本を多し中に極本繩
とよ八十等をわたりしよは辺紐を交とるれり
まとも今にその余凡強りて極本をわたりしよ
繩と誤りてうふぎ繩とよとよ又或人
の云むしよは辺紐を乃繩とありし時茶店
りしとるの中にしよとるれりやのありしが
店の方の名とあふぎとよひりれをいつとあ

あふぎが繩とよとあふぎとありとの俗説あり

陽島山淨心寺説ゆは在る海にありてあるに
苗本ありゆへるあふぎ繩とよとよと誤りてうあ
繩とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよ

○鶏声ヶ聲の 約也何丁のえき

むうとと井大牧所利捨を此の色に夜中と鶏乃
声ありそのれをありた利捨をまは内中不
声ありそのれをうがらえんに金に鶏とあり出

せうしめて 新名をうらうら 江戸砦子に山里依
も今に志うらう

○鶏声塚

古井泉屋浦の内はけりいけ塚より 金の鶏をあら
出た中へ鶏声塚とよあり大塚とよいけ
塚を右田及港乃築く大塚の内ありとよい

● 塚陰がよふ鳥込まをより西へ下を板けりてきた

あま利系此を妻十の山大木との辺よりより

ゆ先に能成るの色酒井泉下を妻のあいのた
透小石川小東丁横丁の辺と都々鶏声々窟とよ
昔古井大物利係を此の辺夜中に鶏の声
ありそ石とあらんを妻の地中に声あり
その船と堀とくくくく金の鶏とあり
出せり塚と新名はくくくく 性たれ
金と鶏のれに造るまきく 今のか畑
の敷るくくくは堀出せり 福を今井
戸とあれりいけ酒井泉のを妻とありし

か天明の久一松の所居と云う一以所
居をへと 將軍家の御成もあれむ
上段之にもおありと

○相見山王社 上約也新居也 神は大江彦河

社傳云往古より約也新居の地より江と云ふ市
た邊つといふ百姓の地に居たり元文五年八月
より今の神主の父方に右邊と社名とん延享
元甲子 年四月本社洋殿造営遷宮也

○櫻蔭子回境内之古松乃大樹あり神主の宅
より田畑屋敷の邊をえり一旭の出る以左列
して路をあり互々納涼の地あり
寺院 花守中の神社

○鹿成山光明院 願行寺 浄土宗 智恵寺末 此寺は丁
岡山真蓮社 齋上人 東胤和尚 江戸品川の人 慶長
十五年三月廿六日 寂當寺 八木川 願行寺と一寺之以上
人住職の時ありとありと云 喰竹の上寺所と後

天和元年田原後以北上移りしあり

不動尊 大山田原作の尊像あり 塔八尊 追尊あり

○威徳山寂浄院大恩寺 法苑中末 同所

同山寂浄院日賢上人 日蓮作大黒天安置

弁天 運慶作 昆沙門天 傳教作

○ 西教寺 一向宗 同所

同山

○真隆山西善寺 日宗本願寺末 日所 西所

寺傳云同基了顯法師俗性安養病人と云遠州

乃夜あり其長六年廿二歳にして本願寺教

如上人乃得弟子と云元和三年高寺起立東茶院

室如上人より寺号と稱り真隆山西善寺と号す

とあり

○親縁山竜池院正行寺 淨土宗増上寺末 同所

同山念蓮社専養蓮通和尚

●閻魔堂 泉堂追甫

● 覚實院像

石像之境内之石室寂寂と病む者立
形其れを驗あり酒葛椒と傳ふ

● 菊子追甫先覚院署縁社之曰菊子境内に安
まはる覚實院を即菊子の社城にして神田に伝
ふ是を賢勇社と云ふ物に石をせし喜もあらず
も亦く言行一法の修驗ありるそ大尊に入る
三十三交老後に及ぶ程力を加ふる人の乃ん社
祇病者と云ふんとの熱験神のぬく付力
人等と生石動と云ふ平生海と好む純事な
く常に海の漁うまうと云れひく葛椒を

唾く又酒小きざい入く春英早も喰せはく
とふがりと云ふて是をくん寺へ来るとに傳ふ
是を歸らば一にふくうの石像を別くあて云
昔後後其を以てあまんとせんたとをふき
と津江悦ふるふくしとれより元祿十一年
五月十日倒のしくあて好む春のたのぬ
くにして語く云我殿にたをく入る三十
之交の公殿と如能にあはれおあめりた
今より塔人の物ありは福殿と云ふ人又酒

り後ろ病を念さん といへく小児のくろめき
とてえんたおのひさる病ありおきくこれそ
とみくもん死しとも神にたひ言むおけり
おと語り終てききや門あつ出らばひ入命
終せらふとききあふこあふ今くたあつて
たしなむあし終あふとあつて信ととて
ききあふ名愕然としくおどろきうら怖る
信とこれと素敵のぬくに収む今のお重き
ありそにたきと生あふ時信のきき像に本

○陽島山常光院心淨寺 日本回来 目所
く一病若病を祈るに利益は著しきなり
信心の人競あふ遠にわをを賞とこれと祈
ると下界動を云ふりて今とふがし信を献すハ
おたにせしすおにたてがあらん

○陽島山常光院心淨寺 日本回来 目所
開山 到登上人 本尊阿彌陀佛 惠深 北苑 蓮露

○城照山法林寺 法林身延寺 日本
開山 小安鬼子母神安毛

○高耀山長元寺 日向末 日向所

同山鎮玄院月長上人

○覺性山諸妙寺 日向末 日向所

同山覺音院月遵上人 七面社 三十番神

高久太田道隆乃石碑有開基太田家之

○万年山勝林寺 禪宗妙心寺末 日向所

開基勅賜禪阿弘濟 禪師

○浄土山十方寺 浄土源生寺末 日向所

開山水食田卷上人 地藏尊安置小野篁作

○大智山海藏寺 禪宗純泉寺末 日向所

開基勝菴宗最大和尚 天文三年七月十日音寂

菊堂甫

越前國南余郡湯尾峠 痘瘡神安置 痘瘡 麻疹 守護神

高久奈平乃墓あり委神々 出州の系より

○一向山専西寺 後州門祇末 日向所

開山正入洛陽の人之本願寺東叅院門主之仕へく

府に下り定永三丙亥年神田陽實に乞ふ寺と記

玄奘明曆四戊戌年四月廿日貞享年中今の地へ移り申
寺傳あり

○法照山顯本寺 法花會妙法寺末 同所

開山

○桂芳山瑞泰寺護念院 淨土智慧末 千石末

開山光蓮社勝譽上人桂芳和尚 寛永五年起立

地藏寺 水食空無上人作

○福壽山大林寺 禪宗高林寺末 同所

開山喜山春悦大和尚

○千年山崇松院清安寺 淨土宗 千石末

開山崇松院殿心譽清安大禪尼

○東梅山陽花院清林寺 同宗幡隨院末 同所

開山長蓮社觀譽上人祐崇大和尚

觀音 江戸三十三所之内之番 ● 昆沙門堂 菊堂甫

○天昌山松翁院苑改寺 同宗本誓寺末 同所

開山本誓上人

大観寺 長谷寺の寫立像一文天観音子林山常念仏
江戸砦子に以真享の江戸町丸石を去る湯とく
者建を以とく

○美亀山大保福寺 天台上野末 日所光海より

開山佛恵田明禪師開基小向氏御朱印或百石世俗
石垣でしり

○惣亀山惣禪寺 禪宗法福寺末 日所向創所在

開山日山春大和尚

○幸福山圓成寺 法苑

開山月性上人

○一心山専念寺正定院 浄土知恩院末 日所

開山念蓮社専譽上人無胸和尚

むらさき池の端小より天和年今の地に移る

○寛了山清浄寺世尊院 天台上野末 日所

開山権僧都惠宏 御朱下式百石

或人云本堂と三九板御殿と端と建之故より後作

クにありて棟依一銅丸こととて以門前とせし院門
前と云又佛具大佛らに葵印致附之

○大覚山浄心寺 法花法恩寺末 竹所 寺傳云丸山
ト云

開山日増上人 寺中實相院養老坊 學成坊

寺傳云太田家譜之浄心院日海禪尼者北条氏綱の如之

と太田原之郡資高室 新之原資高母之而云天

文十九年九月資高母儀江戸平河京創之其後神田

小後元今丸山ト云

宗祖大士自作像 天降稻荷社

關東治乱記云永祿六年正月里見茂弘並之太田三左

北条氏康其子氏細統州国府臺にて合戦之里見

太田等敗軍に太田原大康高兄弟三人に北条家

小後一が以交同苗三樂小一味一と大不勇力と

勵一舅太田下野守と討殺し其六席の妻是と

悲一に尼に成り善提を吊武別江戸神田浄心

寺々他尾建之に別ち仍尾の本像と云今に在

之と云

梅がたに北説と云ふと云ふを遠くいつれ
きふやたれどもうの説を好むと云ふ

○本誓山常檢寺 法苑妙満末 同所

開山日浄上人 寛永年祀立本郷四丁目より後凡

宗祖大士作大黒天安置能譜師雪中菴嵐聖墓有

●菊をり曰予を檢るへ幸り嵐聖の墓をんせり
碑の表にたのより

雪中菴嵐聖之墓

碑のうらに

一系ふむひとらるる風の上

宝永四年丁亥十月十日没文化三年

丙寅正當百回忌門人再建之

雪中菴嵐聖末謹書

たのしきりりまゝの例に嵐聖書之石塔を
あしゝえ塚と云ふと云ふ

○金竜山大回寺 福永茂林と云 同所

開山之山正雄大和尚

追甫

●秋葉社 菊堂甫
●ふろく地蔵寺
●菊堂より陵の近き故より古方よりいさ
へ奉安す

○正任山福相寺

法苑又延末

鷲岩岩屋

開山本山廿世如 院日重上人

寺傳云天文十七年己丑起立初八下名にあり寛永年中上野の境内にあり加代地とて今の所は後き

くくく開山隨才の像を鑑寫り日朝上人作開運の

祖師安室 ●願満大黒天 菊堂甫 ●帝釋 傳教作

○匡王山妙清寺 禪宗通云流東陽寺末 同不白山下扱

開山勅賜大峯佛鷄禪師

茶師如來 春日作 俗に虎茶師といふ高きに安室

●菊堂より茶師のおもむく故と茶師扱と里伝云

○十行山大叡寺

水戸久昌寺觸所

曰不福相寺より

開山日蓮上人像 日法作 日朝上人像 眼病 身護

叶稻荷社安置

○朗昌山蓮久寺

池上末

同不福相
白かハ

開山本山土代佛泉院日埋上人慶長三戊戌年七月

遷化寺傳曰天正十九辛卯年起立初神田明神下

了く化とくふ元永元甲子年各中東さ所へ

移さる元永十六癸未年南下り移さるをり

● 妙尼大士安玉 菊を退南

○長龍山清源院常徳寺 浄土知息未 土切居移了

開基貴譽上人万 和尚 寛文三年起立

身代り地蔵尊 即丈七尺余 蓮心作

寺傳曰身二世轉譽上人病とるけよ身きうげ

右の眼をれ既盲目と多んとんたに信ぼる

知乃地蔵尊に祈れ云とをけけた十月毎日の夜美

身とけくま眼をりし 眼の苦痛をとる事

身と心のまうにありし是より云原の右の眼位

れとあかすれよは後人傳さる知ありと云

○白死山養源寺 禪宗妙法寺末 同所

開山秀嶽智和尚

○慈雲山德源院 同海禪寺末 同所

開山無礎淨光禪師覺如大和尚

○金地山切徳院蓮光寺 淨土智慧院末 同所

開山尊峯上人 寺中 天誓院 專松院

○地久山法藏院 天栄寺 淨土智慧院末 古物有

開山行蓮社信譽入西大徳

本尊彌陀 行基作 子育地蔵寺 音基

○金峯山高林寺 禪宗 同所

開山桂巖宗嫩和尚

○梵光山圓林寺延命院 天台野末 同所

開山嘉全法仰 弁才天慈愛作 江戸百社の内

稻荷社安置

○天澤山竜光寺 禪宗東福寺流 同所

開山虎伯和尚 伊勢竜光寺別院心

尚寺大次の様あり

○光蓮山常照院正念寺 浄土灵巖 日不

十一面觀世音 江戸三十三所の内は二五

畧縁起云敏後同妙香山の林下園の山といふ所の松の
控より出たの灵像をむしり敏後正統國の付園中の寺
院兵火のたつた所とあるといふ所の寺の像ともを
信は像と負つたをむしりあるといふ所の松の松と
幸ひに其像を隠してある後にはより夜毎に
光明と放たる人々其の姿もひとしくの松

の傍に菴室と建く其像を安置し尚も開山之
譽諦岩廻國の時不之後の名ありと云に後一
字ありまきし云々

○増上山三行院 湖泉寺 浄土増上寺末 日所

開山開卷上人 七観音 飯川地所石仏書玉

○本然山浄閑院 德性寺 同宗灵山寺末 日所

開山廓卷我念上人 地所寺末公作書玉

○東光山定泉寺 日宗智恩院末 浅末了

用山廓卷上人 重叙方 江戸三三所の内五五

●世伝矢場の足家とよみ矢場とよみ伝る
のる菊をがよ

○大聖山南各寺 天台野末 同本 里信不動本

同本不動尊 八官所教豊福所張不寺内とあり

江戸砂子云高寺の女をい何良未目山第二世万行

和尚廻国の付しぐくの誰も知れずりて其像と

さつく干後高小初込村初板と夏店と後人不

幼多と建立しはきつうし像と約中に納

めく赤目不動と号し伝る定永のたはる

師の師河成河く目黒目白に對し目赤と

ふべしよの上まつて目赤とふあり

○繁栄山福壽院養昌寺 禅慶寺末 庁町

用山明山密大和尚 浄土権随後末 同所

○東向山大運寺

用山願卷上人

● 観世若本至 菊手南

○ 金剛山系通寺 禅妙念末 月所

開山三任妙心勅護佛海忌而云禅師海洲和尚

● 文珠 観世若本至 菊手南 定永八幸末身記三

○ 諏訪山吉祥寺 禅宗上州永原寺末寺銀五十五石月所

當寺開闢畧記長祿年中太田左衛門大夫持資江戸

御城當用及とき丹と堀りと丹元より吉祥乃文

字あり金下といひあり是を端ありとて寺と開闢

く吉禱と名をくものち和回舎の内にもそ

詠語咽袂の補化あり一ゆに山と詠訪山と号

一開山青巖周陽禪師之天正十一年卯年九代元照

和尚乃付この下りてと懐し盤菜して人勢の在

徒参禱弁道の多よとよと一うふと習化と

航ひ袂回巻に携る今乃水道橋を其付の表つ

の橋あり仍たりの橋と吉禱と信とよと懐と

北へうつり 明曆十四年 毎年正月三日所吉例に

吾禪寺乃汲茶草既深且登城して経同
 何と元照和尚の登城ありしが俄た夕之
 と年こそ帰らぬ中の一し 約命ありて終
 目乃所業を端々まじりて登城の所
 この所業おしきり今おとぬらに侍奉に
 元徒千七百人と云

学寮

新修の学寮

蛇塚

桑平ふり高き境内おろし誰人の扱とよと
 知れぬ或人より田中を那女捕か左境とよ高う
 年考ら

○平松山教元寺

一向宗 東ノ末 祐達 神明末

開山

○大會山長源寺

同宗 日不 多士 末

開山 西玄法師

俗名池田刑部源五信
 定永十四年丁巳正月廿日寂滅 今五七

○見海山江片寺

禪宗 高林寺末 同所

開山 白剛 竜大和尚

○明窓山天然寺

浄土 聖徳寺末 同所 長源寺トナリ

同山然如上人

同山白州寺大味師

○具山山田村

○大崎山

○大崎山

○大崎山

○大崎山

○大崎山

大崎山は、大崎郡大崎町にあり、大崎山古墳群の中心をなす。古墳の規模は、東西約100メートル、南北約50メートルと推定される。古墳の構造は、石積みの円形墳で、墳頂は平坦である。古墳の築造年代は、古墳時代前期と推定される。

深井 西ヶ原

往古を以て地名ありにや、北条介限帳にも之を記す

是れを西ヶ原の内とて、深井の里とてあり、諸家

地名考曰、獲延没井、武部、須味、の詠歌、

字とて、視東春、是れ、遊獲延、賞死、乃、得

有とてん也

西ヶ原、北条介限帳にも、平塚の内とて、同細を在

る、北条家の旧記とあり、同細中里、今、同所也

深丹死檀

四時乾実の遊覧多ある事あり梅と孩皇の
内より咲ゆと核を教皇の「死死」ありと記す
是とあり其ときして「死」を以て知の「死」なりて
檀と浦に似たり牡丹の「死」をありと後秋時
がんに似たりとありて「死」美草の「死」記
ハつて「死」なりこれ「死」をありて「死」州「死」
山乃「死」なりとあり「死」とありとありとあり

をとりて「死」年中「死」州より「死」州に「死」
ありとあり「死」に「死」なりとあり「死」都への
が「死」珍実の「死」なりとあり「死」山「死」角「死」
向「死」無二「死」唐松と「死」なり「死」山「死」麟角の「死」
大内「死」の「死」に「死」なりとあり「死」明暦二丙申年
より「死」比へり「死」今「死」に「死」百十五六年に「死」なり

○深丹山阿弥陀院西福寺 真言無量壽寺末 西ノ末
本尊阿弥陀 徳一大師作

正一位福后神社 在より徳元はくは迎の徳さし
 高多村移后 聖天皇 八幡宮 鹿倉神
 中既天王 北秀堂 弘法大師
 深井 福后のおまはらみと徳元より是と深
 井といふは迎と深井といふはくは迎といふ
 かるをも西々東の遠村ひと自ら詠めて実
 に縁原を繋につくつかつ今の伝説を
 別加波山正徳院を兼帯して西の神府と

法人に施し其陰うをうたはしゆ阿の

●尾古渡客軒 厚徳 追記 追記

○明王山不動院 真云 西ヶ原

本尊不動尊 弘法大師作 平塚別当誠徳寺兼帯

○佛堂山西光院無量寺 同所

同奉行基菩薩 同奉行つち多事よふた詠之

亦阿弥陀之題目 行巻作 ねを面する長福寺と
 ころり寺の長寺号を改

観音 西田之寺の第一

菅原師直の子の墓

高き土塔にありて久しき人
形を考ふるに

母衣塚 京さつりあり

阿弥陀をのちにあり大木のさ
つりあり定免雨のたを奉に後
名づくともいふ

○補陀落山昌林寺

禪宗徳永寺末

目所

開山猿菴最大和尚

本尊地蔵菩薩 真心作

未本親善行基菩薩六阿弥陀彫刻の形あり

未本と似く刻よりふかきあり但古を補陀

落壽院と号し應永年中昌林とよ呼の中

具せしより昌林寺と号し同十八年深倉村氏

と乃母寺ふく信し七間也面の堂と建らる

文明年中左田左儀二十四丁の田と号附あり大

永永年大災より信を堂院成良とあせし

戸祐子にん也

ち此に言敷敷ありその阿弥陀面をたありか大

災の後より失ふとあり

○光明山圓城寺

浄土坊上寺末寺額五石 中里

寺はくろく山尚寺用山 御入国の修所迄に出る時
を庵の口色ふあうしとてし後此を築む
とひくんとあり尚すと世に比翼寺といへり此
習鳥を尚たたりしとて比翼にありんば凡そ建
の所を本寺阿弥陀長生所 眼ニ善哉五石作
聖堂を 阿弥陀之寺 亦玉 政之に聖と号す
御腹掛松

寺はくろく山慶長の比に習鳥の付まきらせり

御腰を掛さるるありし付五石乃は伊集平と
稱入るしはねを掛るあり

○祇念山仲臺寺 浄土宗坊と号す 上田細村

本尊雷除阿弥陀 傳教大師作

○和光山淨仙寺不動院 真言 同所

開山起立年曆久しき所多しとありんば

○藥王山光明院 同宗 同所

本尊法師如來

○普光山上台寺

法苑

同所

同山上台院月雲上人

○西宝山阿保院院普門寺

真言東邊寺末下田畑村

本尊阿保院

○白竜山壽明院東覚寺

真言系末寺末同所

同山行基菩薩

本尊不動

山法大柳作

石仁王有

几呂佛二番目

八十八ヶ所移シ六十六番目

田畑八幡社

當所法寺

御祭平七石

文治五年右大将頼朝公勅語云

○寶珠山地務院興樂寺

去云所定末寺故于大日本

同山行基菩薩

院八十八ヶ所移シ

五十六番目九品仏三番目

滅除地務寺

春日作

ち他にソムじりひ寺へ夜置入今付定と尊元

とんその時移り所所合と是と防が置

械おどろしく近去望り本寺乃麻の初り也

何うりれむとんんに御是に流つきあふと也

六阿弥院 四喜目

●西行庵 兼重追南

●菊重らふを幸食室と云ふも庵と云ふ

菊樹亭右とおきて其毎に在觀の人あり

山の上に古き因信上人の坐像とあり

冬に雪障りのもつ又祓ありとあり

平塚 玉子村

小糸家少元と云ふ人を知りて此に平塚ありとあり

田相中里玉子村と云ふは内と相なる今八年
塚と称する所とありとあり

○平塚神社 神領五拾石 別當云言平塚山安楽院藏書

畧縁起云為社八幡太師及加茂以師及徳新羅之

師及是此所之云云社明神と云奉祭あり以々天皇七

由代宮相院御号元永年中武州豊島郡城を以

太師及自作之是々其跡に於真信同宗任在流

系其衡同宗衡退治師孫の時を以の城に居退安

をい御遺本尊上面記号と端より別行基著
薩の御師長七寸近交と城の傍北より宗師遺と
押建御之人の御氣とも小納むきにいり今に遺振
とや社乃後に有り北の東を築案安永寺の中
云赤梅檀御より一尺昆首羯摩の作之別千巻尺
と鴻瑞の玉座之中奥安永寺北住居の廻國修りの
砌より大塚帯たぬ東屋石のぬくたしそ動たそ
に傳て居るに本寺と附屬し居ると安永寺と号し

寛永の以新に城宮寺と号くこと
江戸砂子之寛永の以山川城宮と号し檢校とある
人之年久しくは有り云也にちりづくと此所不測
有り付城宮の氏神をれも尚社へは合帳の由記と
めらる事速に城宮にあらせり云云後ひるすと同し
在御社領所ありし城宮にも不領とありし
時に城宮社領社に改造し又在養の令り云れハ
と云城宮寺と改め多まひりとあり山川氏の末葉

今にありしを
但山川氏の不敏云々
の内百石を神領云々

山川捨授城居之百石と給ふ内百石と尚私に寄
附は自分言ふると欲は今乃山川下惣も但し
授授の石礫は私にあり

栞をうた求源雜誌の夜是に是あり昔は平塚
村の古民の子に盲目あり十世お某のはたに
天下泰平くしよ慶長のはうや 所成の附
四の片はと天下泰平と声 ありしと云ふ

さやらうふい盲目あり吉陽のふりにち百一
上まにくとを石をらくに 所城へ瓦つれられ城
官とりふりあふふされ五拾とと綿ふ以後年
塚村に居候は城居我死後不孫と絶とのもか
りれととてあふたと氏神平塚へ寄附城居
と流達出ふとありは夜と江戸祐子の夜ソゴ
れは是ありんといふわ〜 ありと後人〜と
ぬ〜

●桑重の今川族女の上山川某平塚村を欲せられ

江戸砦子の説とくしとせん

或人曰佐右八幡太師家系奥州乃運送を伝代
凱陣の時は此に新敵のちを埋振と築て平
若振とよ今の平振をよこし一はと建て如
兵と名付しと何州坪井祀ふりとき右政
生さの説をよひ

○白鬚社

平振の細中又陸虎
祭神猿田彦命

茶山寺之明院持

その勧修の年月を忘れ疑ふらくを島氏の祭
る如くそ平振城中に祀在ありとあり

○阿蘇の杖

阿蘇の神本細の中にある
そ杖架を杖のこしそらうれを村よりそとねあり
とひ杖うらうとけしそらうれを村よりそとねあり
そ杖架を杖のこしそらうれを村よりそとねあり

○大追物の旧地

東武編年録云正保四年上月ナニ王子村 御成大追
物 上説松平後藤忠元久遠之と云
林春弥大追物記云以不を江戸城と云る二里斗り

平原候其の地こしとこしとて 放鷹の所將
場をれし御茶亭もこんあたるしとて 帆と撰られ
あたるや板浦を御茶亭の南にある東西四十六間
南北十間南面乃中央に上増とあまへく御茶亭
板浦乃南拾貳間と隔くる場ありその廣き東
西四十二間南亦四十二間あり 四方に竹を以て塙
とゆふ塙のこころは四五寸地のまへによりて五尺
もあつらふとせん塙の中央は方板八尺に長き物な

ときてうとこころをせんを勝ふとゆふそのまへ
りと勝ふきことしゆと中央に長き十八尺余の繩と
以て方四五間をうらふ圍をせんを大繩とゆふ其
圍乃中央亦長き五尺余の繩と以て方四間を圍
とせんを小繩とゆふ其内に板と入れ漏らす
繩とせん一塙の坪の方小戸ありとて大板の口と
巽乃方にたつりきとをのけの口とゆふを轆つ
よりこころをうべしとて

○御殿山

定取の以御殿をとりし所より名をとりし

○平塚城の跡 竈櫃塚

平塚神社の北にあり
畑中とあり

此古き島氏代しの居城の跡あり竈櫃塚としてその
所の竈櫃の跡ありと畑中とことづらむる所の地
とのこと源倉大判家云文明九年正月長尾重春一
味には武州を島郡乃住人豊島島由左衛門内房
平左衛門右神城経三城と云はる川城のを源と

五切を四月ナリ太田乃薩江戸より初と出で島平
右島々平塚の城と云はる城外と改大し帰るる
此に豊島島より見ゆ由左衛門と表るる右神城
跡を概より出改まらるる左田乃薩上校刑部如備
千重自胤以下江右田東地家とよみしに就向
ひ合戦しと云ふ島平左衛門尉と初め板橋系塚以
下百五拾人討死したる同十年正月古より太田乃
薩を島より出で島が平塚要害に押寄せられし

ひ定保れとらありん 台鏡より海へもつて白浪
と下りくひ世にらんざくあやらしきもれぬこのた
多みの内にと東のふ海ふた木履れり下むしの
所ありや六天の處とつふく社もあしひ東の内に
ひくくを鳥山の神社ありきん今とと子産現の末
社にあり是永の以師尊飾之像にありしをひ
表上両合のふさせられしあり

飛鳥山碑銘

惟南國之鎮曰熊埜之山有神曰熊埜之神寶伊弉丹尊
也配祀伊弉諾尊事解王子或稱之三神事解別為
飛鳥之祠三机神副焉諸有神央中別錄藏焉誌曰
在昔元亨中武之豐島郡豐島氏叙兆豐島郡為
熊埜神座地之曰王子山之曰飛鳥蓋自此始也熊埜川
曰音無川流象焉爾來四百有祀上人以昔祀之如一日矣祀
典曰熊埜之神春以花祀鼓之吹之旗之歌之舞之今之王
子祀日鼓吹旗歌舞者其來也而世之遠祠宇荒壞風日

不蔽越暨寬永中有司奉祇飾車乃因改兆新之遂遷
飛鳥祠於本祠飛鳥之山有名無祠者由焉三狐祠僻在
北麓云今茲丁巳春三月己亥我后宥明之次親土封飛鳥
之山獨給祠無所與永屬奉祀者衝箸茶奉祠乃蹈舞
捧手執簪首敬風之曰於穆我后車神以誠治人以明指
則正施則行以謔樂郡為神之御神其不敬明惠惟
馨初飛鳥之山也蓬顯壞雉免徑焉車駕之肇從
紀蕃來也有司行邑吏客絡谷道泉瀑碧碯洄而

旋乃植花木數十株內成游觀外使蒞荒雇役數十
人三紀之久猥大為美上花木亦為林每春岩爛熳焉
豈惟善乎祀典所謂春以花祀者冥契會之奇非
邪亦國家之符也遂鏡千石以為表經銘曰縣邈
洪荒有神開國叢跡南紀東土是祀明々我后來封
其城神之眷祐豐稔薦至本支般系衍其業豈億八
坡懷仁祇鄉食德千

元文丁巳之秋

奉福金輪寺住持權大都僧省衛太
東都圖書府主事鳴鳳卿代撰拜書

高土際ヨリ六尺八寸幅六尺余

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

碑石裏

飛鳥山四至傍尔

自辰至坤七三歩
自巽至乾三三歩



氷涼雜記曰元文四己未年花多山乃花と冷泉取
しましつせとれを

冷泉為家郷

あま枝のふりえせんハ花多山苑の下のまじ
あまき

大のほ草今金輪をくけおとあつてあつとぞ

○岩を辨天 滝の川 別高ま之滝河山松松後金割

松松弁天とよ

畧録記よしゆ採石山を弘法大師以ぬき樹下た

死して不動尊の像を彫刻しゆ石上に安んじ
い石と不動尊の像向と名月今にたつ里人来て水
とみとつらひ後とれて諸病を愈げ又傍の岩
底に像あり松松弁天と名づく弘法大師の作
え右へを撰あつてお玉より鎌倉への大石あり今
と跡のこけの流葉の故原に石松山舎哉
の故に地にまるとふかく弁天と帰依しむ刀
とを納しゆ今と有舊記と曰武蔵国を島

の上滝の川松橋とくし所に降と云神言と川上
矢とよりくしに成に教能と云滝と建言
回園と雲降くくし後教多と流くくし乃
乃たる滝と煙也くしを穢滅の乃た回相と没
収せくし流るん天文の以着平阿園梨豊祖の
同基の北へ他家の傍の流るくしと云くしと云
糸氏原へ流へ終に云云の山に没れ又は地を滝
の川と名存るるを滝ありと云川の流る方に流

くしより名存るるを滝ありと云

○滝不動 泉流が滝と云川南 思惟山正受院三昧寺

畧縁起云人皇百六代後素良院弘治年中大和国
宇多郡滝門の 切常久と云此に一やうして学仙
坊と云俗住れたに不動即我乃密法と修れた
事年あつて其夢と云く武取よ来つては泉塚の
滝の傍に居住れよと云乃秋国く洪水しと
川く阿も流くくし中に流るくしと云不動のそ

係とゆふり別は滝の末に安室に千後一人乃
藤原ありて皆の中より一休の不動尊と西成し
学仙坊にまつけり今堂中に安室にありて
かまへし後寂阿る山堂舎と再無くはこれ
かまふとありて其場とありて

○乃滝塚 岩を斧天より王子権現へ出相の中より
朽一棟そのよりありて怪不語して是とありて
塚とありて乃滝塚ありて

○滝野川 一名末より川又きあり川

或説に云き安部王子ありて花をふとのりと流
る川あり板橋の下と流る川の末ありとの末
をむせまうしてと流れありふ知れぬた
流山の下とのぐりて板本宮板ふむりてありつ
ちともくはだよりて流に是あり川といふ也

○王子神社 王子村社記云石列高禪更山東光院金輪寺

神社畧記云所祭神同熊野當社八人皇百七代正

真言古義

親町天皇御宇元龜元年勸請熊野三社見名所記
具后寛永十甲戌年公ヨリ御造管アリ其時儒臣林
道春當社ノ記ヲ奉納スト云リ毎年七月十三日祭禮有
テ寺中十二坊ヨリ踊リヲ出ス所謂熊野ノ祭禮ニ歌ヒ舞
ヲ祭ルト有遺風ナラニカト也

能多山禪流ノハ元亨年中豊島氏南社勸請乃
ト云レ

梅ノ元亨年中に勸請ト云ハ元龜元年

ノの法座とすハ何れハ淋多ハ社傳ノハ八幡
太郎及家御實州江代の母系毫乃記あり右
大邦教祖ニ奉納の古カ今ハあり文保二年七月
大般若經ヲ納ル處ニ奉奉行ト云々大般若
經ノトキ等ト云ハ考モ法座ニ云々
久ノキ事ニ云々考モ法座ニ云々
社再興セハ云々元亨ト元龜ト云々
再興ありト云々遺業の年号と勸請ナリ
其後ハ云々ハ云々社傳ハ云々奉納

おきの風流将野左信守氏並に納戸を登
前とあり

一説に曰く高橋玄右と云々純州熊野の巻に
くあり鎌倉より新館に在り武州
其高部と編入あり古郷熊野権記といひ
よ祀りて王子権記といふに今以社地未社の
内た其時高部清之の社ありと今所ん
ふ以説も又隠りあり大系図と考ふに後
六所年將恒武州後文に恒氏其後高部六

高部家と云々王子豊島太郎康家
太郎清を代し武元之恒氏記にの
よ柳不えあり

○王子権高社

令帰与指

尚社を園八州権高の鏡飯と云とくは毎年十
二月晦日夜概大と云く田畑の巻と云の氏は
ありありとに戸破りにてゆへと云王子の七尺
後とよありと云ん社傳云権記と建之の以

勅語に「見ゆ」とあり、此古社と稱稱高といふに
社の前の田の西むくハ入海ゆとて岸に流る
也かくと稱せしとあり

○嵯東校 稲高のまへ田の中ふあり

去流云ハ辺三月梅々概大おび多し〜とありて
夜露と概り〜とありとありとれどたにはあぶ
〜とありとありとありとありとあり

○道川 一谷石神川

その源峯を石神村之邊より内子流る〜とあり
〜とあり東の方へ流るべきとあり〜とあり
王子権記の記より 稻高の方へ流る〜細き川に
り

○純州大明神社 中量高村 神皇御本殿門

社傳云 祭神 五十猛命 大石姫神 旧事記曰 已上
之柱並坐 純伊國 別純伊國 造斎 祠神之 豊高 山 在 境
是と勅語 是とあり

○ 匠王山清光寺 沼田村末之寺末 豊島村

南向桑活云往在寺清光之建主也一丈坊也
とし人を島代し清光下りて原家清光を討
乃像ありしは是年自大少を焼失の由清光は
相とて大木の松一株ありしありはとを島代とす

○ 権系を女 尾久尾

江戸初子よ云年塚田神のうしを尾久山の麓に
ありしは清光の末子と云ふ事ありし也

○ 権系塚

尾久山の下の尾久の方へ清光の中にあつた
は畑の中に松二株ありは一はまき地あり昔
を右碑もつりしは何人の墓と云ふ事ありと権
系塚の内と云ふ

権系塚は権系系付父子の内をとり
すじきあり鎌倉大系紙に原廣の以権系
系作と云ふ事ありし人ありと云ふは権系系作
寺の権系系信了と云ふ事あり太田系信了と云ふ

正入の三楽歌 私曰三楽は田原城の後乃州の田原城に
あり云々と詠一序と云ふ所にある事
浦を常州の田原の詠
の詠水戸詠の令と云ふ事 天子の以去州を詠那と居任はる也とゆれば
うごぶらうらうらふの歌の詠あらべし

○鐘塚 尾冬より早島川のうご一各外記を去

里談に云はれた色を要州海流あり鐘と負とら
詠のり骨死せしと押と云うに板と柱と鐘塚
と云うし又此辺を外記を去と云うは史記の
外記に於て外記と云ふ人ありつら付ると川のり

ふとれむにうづかともひそのころと云うし
川辺にむらうらうら行を詠だ川中より外記が
詠と云うる中へ川へ入りまて詠と云うるれ
む大流亀ありふらき側に板石乃小流亀つら知へ
乃と外記の太亀の背に繩をゆひ舟中をお
よぎ陸へ上る志うくのうと云へむ下の名式二十人
おらうは流亀と川と流乃を打敷しと云うは
肉を食しその流亀の甲とを流草の葉を食へ

送るに及そ石五斗入りしを以て尻龜と食し
しうとのハハ家弊病とあや、死せし者多し
外託もほろと子供を多へりしとあり、以て板の辺と
外託を多と今にソふとぞ

○阿遮院

去云ふと末

尾久

闇魔堂

同不川踏

追加

○十條

王子村の先あり、天正のはら、小糸氏政の居遠處
何美の領地ありとぞ

○地福寺

去云 去福寺末

十條村

小糸の松高の在木つり、宝賢氏の抱地あり

○地蔵板

はたふの板の辺り、地蔵ありしとぞ

○遠坂

地蔵板の辺りにありしとぞ、天正の改、木の領を遠

後何系の懐あり大表松一株ありとて懐のた
ありとて近世松を切とりて白とありと暮らこ不
ちて細とあり今々福とありと松のこほと
りへども不もさむとありとあり

○法信寺 日蓮宗 稲舟

境内の山奥に石室あり七八尺四方あり

番取明神 法信寺の内ありいふにたき神祇石像也

○普門院 真言 錫杖寺末 同所

○自得山静勝寺 禅宗 同家 同所

太田道灌開基の 一 此寺は地々道灌は石城の

祓ありと云 道灌の墳本像とありとあり 道灌

自寺和号ありとあり 慕玄集とあり 同行乃

松とあり

○真頂院 真言 湯杖寺末 赤羽根

此寺のとありとあり 能が池ありありのりしとあり

川口

源順和名枚多摩郡川口加波とありこの所を多
摩郡の内ありとんゆいりまを古き地名あり

○法幢院 去云 湯杖寺末 川口

開山定尊法門

○川口若光寺 真言別当湯杖寺西祥院 東明院

寺傳云建久六年四月定尊とて信信臣若光と
如來の曼珠とあり信別若光寺へあり一七の麓

り本寺と傳へ合洞と云く湯杖寺と云く此の四月
乃分洞信信臣とありこの寺に安土と云く也

○隅を 田所

相傳云是を天念國家の後強りて人會九十七
代光明院御宇曆應年中河内小丹南郡よ

り此無へ極



○宝聚山地藏院錫杖寺 真言智積院末 田所
本尊地藏尊 行卷作 寺領三十石

本館外蔵刊行本

巻之四終

江戸志卷之四終



改正
新編
江戸志卷之四終

